

今年度も、各団体を
紹介していきます♪



奥州市民活動支援
コーディネーターの
鈴木まゆ子さんが、
市内の市民公益活動
団体を紹介します。

■問い合わせ
本庁地域づくり推進課 市民活動係
(江刺総合支所・☎ 34-1618)

思いをカタチに 地域づくりの輪



特定非営利活動法人
シチズンスポーツ奥州

誰 もが日常的にスポーツに親しむことができる環境をつくるため、サッカーやコンディショニングなど、さまざまなスポーツ教室を運営しているのが特定非営利活動法人シチズンスポーツ奥州です。

設立のきっかけは、水沢地域で活動していた四つのサッカーやコンディショニングの指導者らが、クラブチームを一本化し、地域でスポーツを盛り上げていきたいという思いから始まりました。スポーツを通じて地域活性化に取り組むため、平成23年に総合型地域スポーツクラブを設立し、翌年には特定非営利活動法人として認証されました。

現在では、市が管理する胆沢川桜つつみ広場の管理業務を委託されているほか、水沢勤労者体育館や前沢グリーンアリーナなどの指定管理者として施設の管理・運営も行っています。

誰もがスポーツを楽しむ環境づくり

同法人発足当時、胆沢川桜

つつみ広場のグラウンドが経年劣化などにより芝生の張り替えが必要な状態でした。多くの市民に利用してもらいたいという思いから、公益財団法人日本サッカー協会のJAFグリーンプロジェクト「ポット苗方式による芝生化モデル事業」を活用し、芝生の移植を行いました。

この整備には、市内の小学生から一般まで600人を超える皆さんが参加。芝生のグラウンドの魅力を感じ、その後もグラウンドを長くきれいに保つため、同法人スタッフを中心となって芝生の管理や養生などを継続的に言い、常



ふかふかの芝生に張り替えた「胆沢川桜つつみ広場」でのサッカー教室

により良い状態で利用できるように、今も環境整備に力を注いでいます。

また、サッカークラブチームのOBに県知的障がい者サッカー連盟の指導者が在籍していた縁で、障がいのある人でも楽しくスポーツができる機会を提供しようと、障がい児・障がい者向けのサッカー教室を開催しています。このサッカー教室は、障がい福祉サービスを行っている特定非営利活動法人「こぼ」と連携して実施しているもので、胆沢川桜つつみ広場や水沢勤労者体育館で年間を通して活動しています。親子で参加する姿も多く見受けられ、サッカーを通じて親子の触れ合いの場にもなっています。

※これらの事業は、市の市民提案型協働支援事業補助金を活用し実施しています

団体同士の連携

サッカー教室は、平成28年から実施しており、今年で7年目を迎えました。当初は少人数でのスタートでしたが、活動を継続していくうちに徐々に増え、今では安定した



冬季は、水沢勤労者体育館などで体を動かします

運営ができるまでになりました。昨年は、同教室の中から県知的障がい者サッカー連盟へ県の代表メンバーとして選手を送り出すことができました。

理事長の佐藤訓文さんは「これからも特定非営利活動法人こぼと連携し、県で通用する選手を引き続き育てていきたい。今後も奥州市のスポーツの※プラットフォームとなるように活動を続けていきたい」と思いをはせています。

※プラットフォーム：基盤

<今月の表紙>

満開の桜の下 若獅子が舞う



4月24日、「金津流梁川こども獅子躍」の児童11人が同地区の種時桜の前で踊りを披露しました。例年は「さくらまつり」で演舞していましたが、コロナ禍の影響で3年連続中止に。「子どもたちに披露する機会を」との思いから地域関係者が協力し、今回の場がつけられました。息を合わせて躍動する獅子たちの姿に、訪れた人たちは心を打たれていました。

Public Relations Magazine Oshu City
2022.5 Vol.195
広報おうしゅう
令和4年5月号

CONTENTS

- | | |
|-------------------------------|-------------------|
| 2 キラリ輝く奥州人 | 8 街diary |
| 3 地域づくりの輪 | 10 もっと安心 ずっとおうしゅう |
| 4 春の「叙勲・危険業務従事者叙勲」 | はい、こちら総合相談室 |
| 5 医療機関や介護施設を手軽に検索できるようになりました | 11 子そだて広場 |
| 6 6月から各種健（検）診が始まります | 12 インフォメーション |
| 7 5月31日は世界禁煙デーです 今こそ禁煙してみませんか | 16 奥州遺産 |
| 市長コラム「おうしゅう羅針盤」 | |



中尊寺「舞の奉納」へ向けて、「入剣舞」の練習に取り組む友昭さん。保存会では現在、舞手を募集している

10代から20代にかけて、有名アーティストのスタイリストとして、衣装づくりや雑誌の撮影、全国ライブ、海外撮影などに帯同した経験を持つ友昭さん。帰郷後は、一関市の餅文化を広める活動にも携わる。東京での経験を通じて「伝統を守りながらも、活動の輪を広げるため、新しいことに共に挑戦する仲間を集めたい。ユネスコへの登録を通じて、剣舞を世界の人に知ってもらえたら」と熱く夢を語る友昭さん。見つめる先には、国境を越え華麗に舞う未来が待っている。

阿部 友昭 さん (39歳) ＝衣川上野＝ ユネスコ登録を通じて 川西念仏剣舞を世界へ

世界遺産中尊寺を建立した奥州藤原氏・初代清衡がつくらせた踊りとして知られる川西念仏剣舞。この民俗芸能を絶やさず、後世に伝えようと伝承に励んでいるのが阿部友昭さんだ。

20年振りにUターンで郷里に戻り、改めて衣川の自然や文化に魅力を感じ、幼少期から目にしてきた剣舞に自分も携わりたいたいと考えようになった。現在は、代表的な舞である「入剣舞」の修得に向け、若手の舞手10人と日々の練習に励んでいる。



あべ・ともあき
◎昭和57年、水沢生まれ。水沢高校卒業後に上京し、スタイリストや百貨店販売員を経験。2年前にUターンし、昨年末保存会に加入。両親と祖母の4人家族。